

「スキー場」から「マウンテンリゾート」へ

—長野県白馬村におけるスキー場の新たな魅力と地域創生—

18191226 岩本成樹

1 目的

スキー場の存在はその地域にとって大きいものであり、スキー場を含めてその地域全体が1つの観光地として栄えていることが多くある。そのため、スキー場来場者の量的・質的变化、またそれに伴うスキー場の変容は、その周辺地域の変容にもつながると考えられる。本論文では、スキー場および地域の変容や創生をテーマとし、全国でも有数のスノーリゾート地域である長野県白馬村において、スキー場来場者の量的・質的变化が、スキー場の運営や地域形成にどのような影響を与えているのか明らかにすること、および来場者や観光客を増加させるための方法、若者のスキー・スノーボード(=Ski & Snow Board, 以下、S&SBとする)離れについて検証することを目的とする。

2 HAKUBA VALLEY および白馬村の変容と取り組み

S&SBを目的とした外国人観光客はすでに全国的に増加していたが、白馬エリアの10のスキー場を「HAKUBA VALLEY」として海外にPRし、共通チケットやシャトルバスの運行など外国人が利用しやすいスキー場の整備に取り組んだことで、HAKUBA VALLEYの外国人来場者はさらに増加した。これにより、HAKUBA VALLEYを訪れる外国人観光客の滞在拠点となる白馬村においても、宿泊施設や飲食店などでの英語表記、マナー条例の策定といった外国人観光客の受け入れ環境の整備が進んでいる。一方で、HAKUBA VALLEYの国内来場者や全来場者の減少により、白馬村の観光客も減少している。この影響で、宿泊施設の減少や観光産業の衰退、若い世代の流出といった変化が起きている。しかし、近年、外国人オーナーの参入による外国人好みの宿泊施設の増加や空き家の活用、異文化交流の魅力を活かした教育を行うなどの変化がみられる。また、グリーンシーズンの強化といった通年楽しめるマウンテンリゾート化の動きから、S&SBをしない人や若い世代でも楽しめる施設など、S&SB以外を目的とした施設がHAKUBA VALLEYと白馬村のそれぞれで増加している。

3 若者のスキー・スノーボードの実施状況

本調査では、18~24歳の若者を対象に、S&SBの実施状況や経験の有無、S&SBをする目的とその行動パターン、しない理由とS&SBへの関心を調査し、若者のS&SB離れの実態を明らかにすることを目的とした。その結果、若者の85%以上がS&SBの経験があり、現在では50%以上が実施していることがわかった。これらの数字を見る限り、若者のS&SB離れが進んでいるとは断言できない。若者のS&SBに行く日程の短さや頻度の少なさ、少

子化が進んでいることから、若者をスキー場で見かける機会が減り、S&SB 離れが進んでいるように感じているのかもしれない。しかし、結果としては、若者がスキー場を訪れる回数は減少しているため、若者集客に取り組むのは必須である。

一方で、実施状況の男女差、始めたきっかけ、目的、行動パターン、S&SB に行かない理由と今後行きたいかなどに関しては、傾向をつかむことができた。特に、S&SB に行きたい、続けたいという人が多く、身近に行く人がいるということが実施率を上げるために重要であるとわかった。HAKUBA VALLEY や白馬村の取り組みにおいては、S&SB をしない人に効果的なものがある一方で、スキー場施設や周辺地域にはそれほど注目されておらず、スキー場には S&SB をするために行くということが目的となっている。そのため、S&SB をしない人が身近に行く人がいれば行きたいと考えていることを踏まえて、若者が友達を巻き込みながら、安く、手軽に行けるような取り組みをスキー場が行うことが必要であるとする。

4 結論

日本は S&SB をする環境に恵まれており、それは主要な観光産業の 1 つである。その歴史は古く、スキー場の存在はその地域に密接に関係していることが多い。そして、国内の状況では衰退しているものの、近年のインバウンド増加によって盛り上がりの兆しが見えてきている。その恩恵を受けたスキー場では、S&SB をしない人の集客や設備投資などが進んでおり、「スキー場」から「リゾート」へと名称を変更するスキー場もみられる。しかし、実際にはそこまで大がかりな必要はなく、S&SB を始めるきっかけをつくる、その些細なことが、今後の S&SB 文化の発展につながるのではないかと考える。